

## 第2学年 生活科学学習指導案

日 時 平成17年9月28日(水) 6校時

場 所 多目的ホール

児 童 2年生 男27名 女22名 計49名

授業者 正木 俊 児玉 由美

### 1 単元名 まちたんけん(2)

### 2 単元について

#### (1) 教材観

学習指導要領の第2各学年の学習指導要領の指導内容(3)は、「自分たちの生活は地域の人々やさまざまな場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」ことを指導するように示されている。また、指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱いでは1(2)「自分と地域の人々、社会及び自然とのかかわりが具体的に把握できるような学習活動を行うこととし、校外での活動を積極的に取り入れること。」とあり、児童が身近な生活圏である地域に出て、さまざまな場所とかかわったり人と接したりする中で、それらが自分の生活とかかわっていることが分かり、地域に親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようになることを目指している。

その中でも、特に人とのかかわりは重要な要素である。身近な地域で出会った人々との会話や様々な交流を通して、子どもたちは、地域をより身近に感じ、「またあのお店に買い物に行こう。」「またあのお店の人と話したいな」などと、地域に愛着をもつことができるようになる。また、地域の人々への思いは、活動すればすぐ生まれてくるものではなく、何度も繰り返し交流していくことによって、地域の人への思いが次第に醸成されていくものである。本単元では、具体的な活動を通して、地域の人々や場所に対するそれぞれの児童の親しみの気持ちや、愛着をさらに深めていくことを目標とする。

#### (2) 児童観

6月に実施した「まちたんけん(1)」で、多くの児童にとってあまり馴染みのなかった商店街を知り、商店街自体に親しみを抱くことができた。また、グループでの踏査活動、発表活動で他人との接し方や表現することの楽しさを味わうことができた。

先の単元で学習の感想を記述した際には、87.8%の児童が「踏査活動を進んで行うことができた」とし、81.6%の児童が「発表して様々なことが分かった」としていた。また「もう一度、藤根商店街の踏査活動をしたい」「もっと商店街の人々と話してみたい」という児童が、それぞれ100%、93.9%おり、「まちたんけん」の学習を深化させる必要性を感じた。

#### (3) 指導観

本単元では、6月の活動を受け、もう一度人とのかかわり方について考えさせたい。その上で、藤根商店街の人々と再会を果たし、より商店街や商店街の人々に親しみを感じるこののできるかか

わりをもたせたい。また、その様子をデジタルカメラ等で保存し、親しくなった人との交流の様子を伝える際の情報材として活用したい。

また、これまでの単元同様、全ての活動のプラン(ワークシート含)や集めた情報材(動画、写真等)をコンピュータのフォルダ内に保存し、指導と評価に生かすよう努めたい。

### 3 単元の目標

自分たちの生活は地域の人々とのかかわりの中で営まれていることが分かり、地域の人々に親しみをもち、地域の人々と適切に接することができるようにする。

- ・地域の人々と親しみをもつてかかわっている。

【生活への関心・意欲・態度】

- ・地域の人々との適切なかかわり方を考え、それを表現することができる。

【活動や体験についての思考・表現】

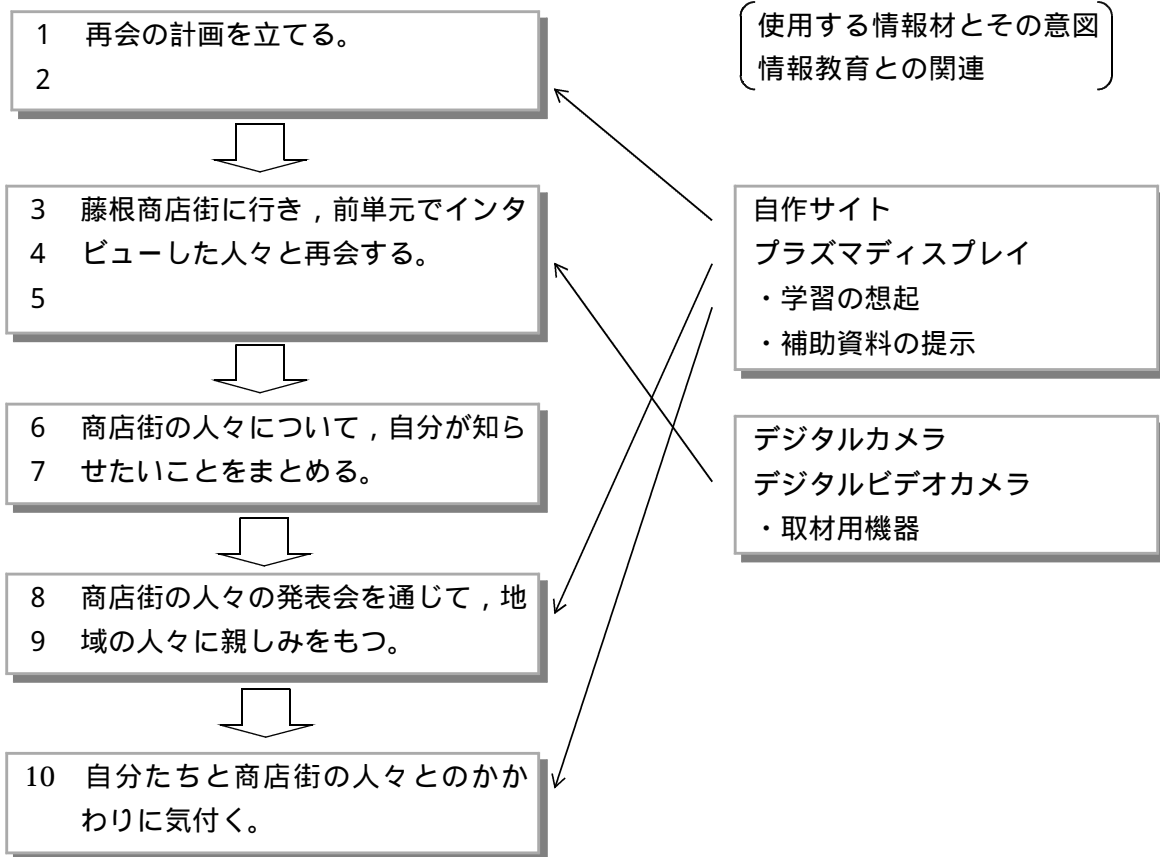
- ・自分たちの生活は、地域の人々とかかわりをもっていることが分かる。

【身近な環境や自分についての気付き】

### 4 単元の指導計画 (時間)

時	目 標	主な評価規準
1 2	再会の計画を立てることができる。	【関】 ・再会の計画を立てている。
3 4 5	商店街に行き、前単元でインタビューした人々と進んで再会できる。  商店街に行き、前単元でインタビューした人々と適切に話しをすることができる。  商店街に行き、前単元でインタビューした人々の人となりに気付くことができる。	【関】 ・進んで再会に出かけている。  【思】 ・商店街の人々と適切に話している。  【気】 ・商店街の人々の人となりに気付いている。
6 7	商店街の人々について、自分が知らせたいことをまとめることができる。	【思】 ・商店街の人々について、自分が知らせたいことをまとめている。
8 9	・商店街の人々の発表会を通じて、地域の人々に親しみをもつことができる。(本時)	【関】 ・商店街の人々の発表会を通じて、地域の人々に親しみをもっている。
10	自分たちと商店街の人々とのかかわりに気付くことができる。	【気】 ・自分たちと商店街の人々とのかかわりに気付く。

## 5 指導の構想



## 6 本時の指導（9 / 10）

### (1) 目標

商店街の人々の発表会を通じて，地域の人々に親しみをもつ。【生活への関心・意欲・態度】

### (2) 情報教育との関連

商店街の人々について，児童が交流の様子を発表する際，発表内容を補うために，コンピュータとプロジェクタを使ってストック（蓄積）された情報材を提示する。そうすることで，聞く側の児童も，話を聞くだけでなく，商店街の人々に会ったようなシミュレーション（模擬体験）をしながら交流することができる。

子どもたちが単元を通して活用する情報材やワークシートは全てコンピュータに保存し，発表やふりかえり等で，コンピュータの画面を使っていつでも取り出すことができるようにする。

### (3) 本時の評価の観点と具体的評価規準

具体的評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への手立て
評価の観点			
商店街の人々の発表会を通じて，地域の人々に親しみをもつ。 【生活への関心・意欲・態度】	藤根商店街の人々に好感を抱き，また藤根商店街に行ってみたいと感じている。	藤根商店街の人々に好感を抱いている。	何人かのまとめの発表をもとに，藤根商店街の人々との交流を想起させる。

(4) 展開

段階	学習活動	教師の支援 評価【評】		教材・教具
		T1	T2	
見つける 5分	1 前時の発表をふり返る。 2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             お店の人たちのはっぴょうをきいて、              お店の人たちのひみつをみつけよう。           </div>	商店街や再会の様子を提示する。	前時までの活動の流れをまとめる。	・インターネットエクスプローラ 前時の発表素材
交流する 30分	3 交流の様子をグループ毎に発表し、クイズを出題する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ようふく屋さんグループ</li> <li>・ざいりょう屋さんグループ</li> <li>・クリーニング屋さんグループ</li> <li>・りょう・びょういんグループ</li> <li>・食べ物屋さんグループ</li> <li>・酒屋さんグループ</li> <li>・けいさつ・しょうぼうグループ</li> <li>・ゆうびんきょく・ぎん行グループ</li> <li>・のりもの屋さんグループ</li> <li>・びょういん・くすり屋さんグループ</li> </ul>             のうち、後半のグループ           </div>	グループ毎に発表させる。  児童の発表に合わせて、画面を操作する。	発表の上手下手の観点ではなく、お店の人たちの人となりについての感想を聞く。	・インターネットエクスプローラ 発表素材
まとめる 10分	4 今日の学習のまとめをワークシートに記入する。 5 記入したことを発表し、本時のまとめをする。 6 次時の予告をする。	机間指導する。  関連する画面があれば表示する。  「また会いに行ってみたい。」という意欲を喚起させる。 <b>【評】</b> 商店街の人々の発表を通じて、地域の人々に親しみを持っている。  本単元のまとめをすることを知らせる。	机間指導する。  指名して、発表させる。	・ワークシート

7 主な情報材

発表用補助素材ホームページ